

## 知的障害特別支援学校高等部における 軽度知的障害のある生徒に対する教育課程の現状と課題

企画者 井上 昌士(国立特別支援教育総合研究所)  
 猪子 秀太郎(国立特別支援教育総合研究所)  
 司会者 猪子 秀太郎(国立特別支援教育総合研究所)  
 話題提供者 井上 昌士(国立特別支援教育総合研究所)  
 中川 浩孝(青森県立八戸第二養護学校 教諭)  
 畑山 淳一(山形県立鶴岡高等養護学校 校長)  
 指定討論者 竹林地 毅(広島大学大学院教育学研究科 准教授)

# 研究の背景

- 高等部における軽度知的障害の生徒の在籍割合  
 小学部 7%, 中学部 11.9%, **高等部 33.6%**

(平成22年度 全知長情報交換資料)

- 高等部の入学前機関
  - ✓ 中学校特別支援学級 16,443人
  - ✓ 特別支援学校中学部 11,860人
  - ✓ 中学校通常学級 1,995人

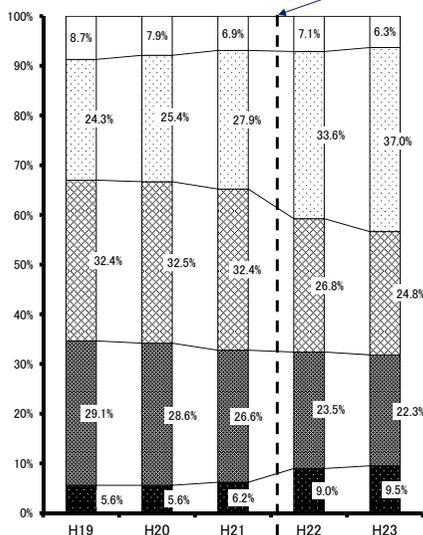
知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校に在籍する児童生徒の増加の実態と教育的対応に関する研究 (平成21年度)



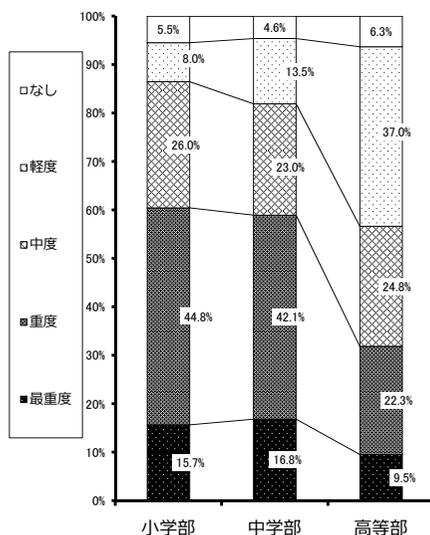
### 増加の実態

H22より調査に以下の条件を追加  
 ※判定基準が「重度、それ以外」のみの都道府県においては、各学校の実態に応じて可能な範囲で区分して下さい。

在学者手帳種別推移(高等部)



H23 手帳種別在籍割合



H23情報交換資料

【研究課題】 特別支援学校(知的障害)高等部における  
 軽度知的障害のある生徒に対する教育課程に関する研究  
 (平成22~23年度)

【研究目的】 知的障害特別支援学校高等部における軽度知的障害の生徒に対する教育課程及び高等学校の特別支援教育の充実強化のための知見を提供すること

【H22Web調査 調査対象校】	
全国特別支援学校実態調査	
全知長加盟数 (本校, 分校, 分教室, 校舎)	679
うち高等部のある本校	518
"        分校	37
"        分教室	31
"        校舎	4
調査対象校: 高等部のある本校, 分校, 分教室, 校舎	590

# H22 Web調査について

## 【調査名】

知的障害特別支援学校高等部における軽度知的障害のある生徒に対する教育課程に関する実態調査

## 【調査の目的】

- \* 基本情報
- \* 学校のタイプの整理
- \* 軽度知的障害生徒の実態
- \* 教育課程の現状
  - ✓教育課程のタイプの整理
  - ✓どれぐらいのレベルの内容をやっているか?
- \* 教育課程の課題
- \* その他の課題 等

## 【対象】

- \* 全知長加盟知的障害特別支援学校高等部
- \* 軽度知的障害のある生徒

## 【方法】

- \* NISEのアンケートサーバーを用いたWeb調査

## 【期間】

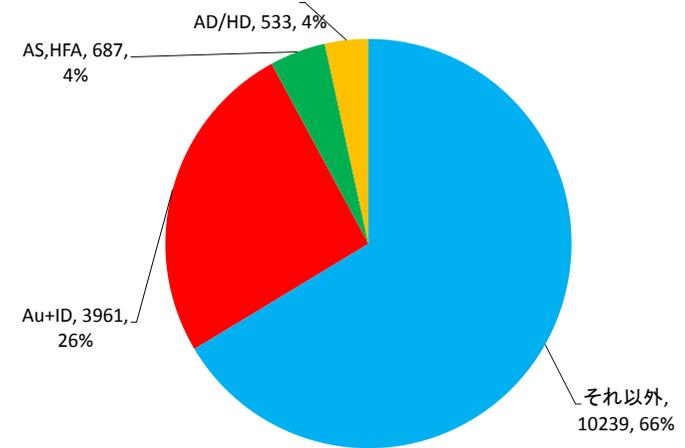
- \* 平成22年7月28日～8月31日

## 【回収率】

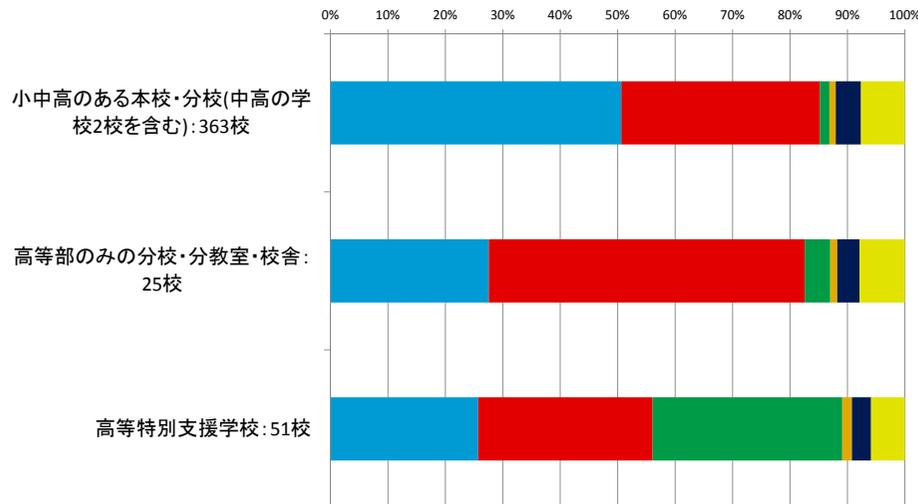
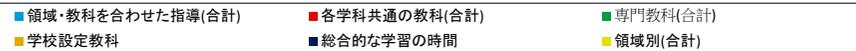
- \* 75.08% (11月17日現在)

# 障害種別人数比について

軽度知的障害のある生徒の障害種別人数比

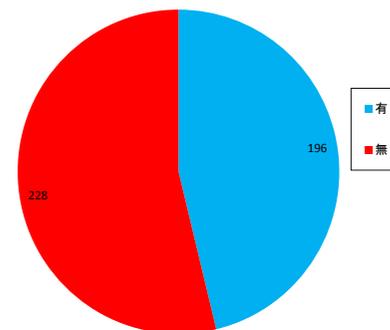


# 学校タイプ別：各教科等の年間平均時数割合

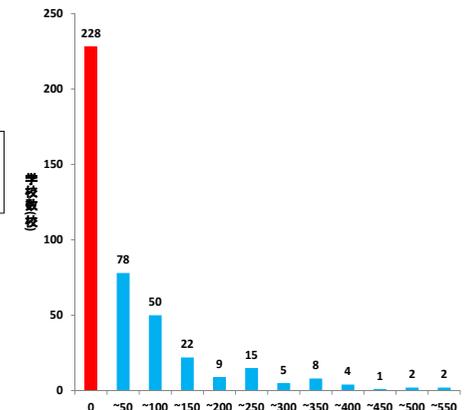


# 「職業」の時間の有無，年間時数ごとの学校数

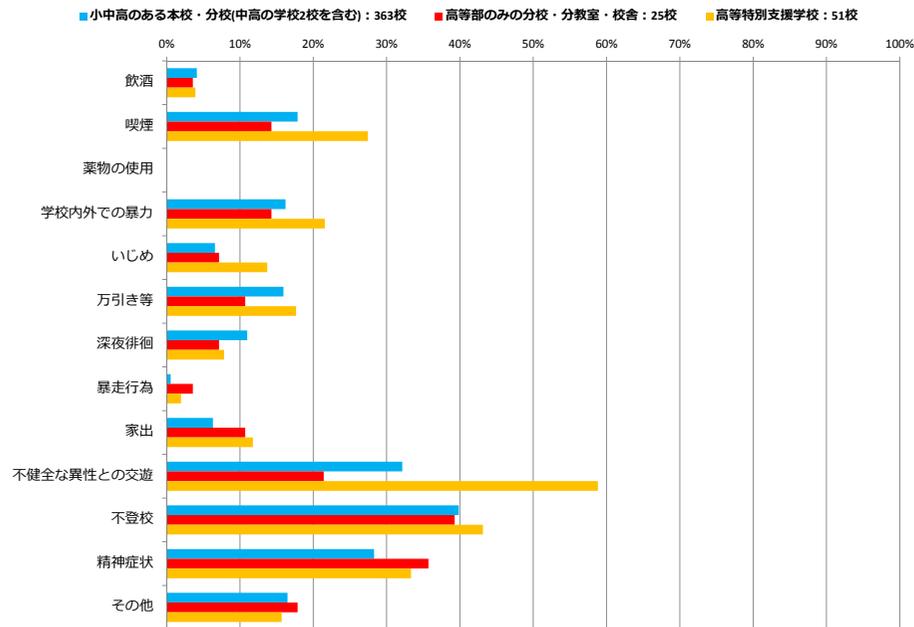
「職業」の時間の有無(N=424)



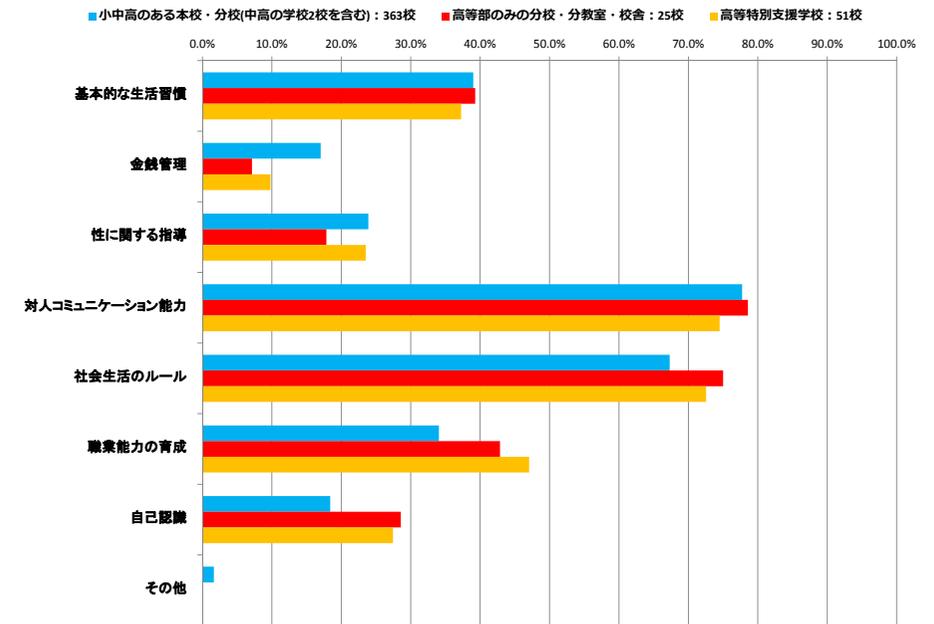
「職業」年間時数ごとの学校数



学校タイプ別：生徒指導の課題（複数回答可）



学校タイプ別：軽度特に必要な指導内容(3個まで選択)



## H22Web調査 自由記述の分析

- \* 以下の設問について報告
  - \* Q67：軽度知的障害のある生徒の教育課程について、編成上や実施上の工夫があればお書き下さい。
  - \* Q68：軽度知的障害のある生徒の教育課程について、編成上や実施上の課題があればお書き下さい。
- \* 回答校数(N=443校)
  - \* Q67教育課程の編成，実施上の工夫
    - \* 回答校259校（58%）
  - \* Q68教育課程の編成，実施上の課題
    - \* 回答校241校（54%）
- \* 分析方法
  - \* 意味の似通った回答で小カテゴリを構成
  - \* 小カテゴリから大カテゴリを構成

## 自由記述の結果のまとめ

### Q67：教育課程の工夫

- \* 工夫の多いもの
  - \* 職業教育の充実
  - \* 集団編成の工夫（＝教科学習の充実）
- \* 工夫が少ないもの
  - \* 道徳・自立活動の実施
  - \* その他の教育内容の工夫

### Q68:教育課程の課題

- ※課題は多岐にわたっている。
- \* 生徒の実態の多様化
- \* 集団編成の在り方
- \* 教育内容の課題
  - \* 職業教育（就労に結びつく教育，キャリア教育）
  - \* 教科指導の充実
  - \* 自立活動・道徳の内容

## 小考察：Q67,68について

- \* 職業教育の充実に関する工夫は多いが、課題も多く挙げられており内容的な検討が必要
- \* 集団編成の工夫の多くは国数等の能力別グループ編成だが、軽度知的障害のある生徒にどのような内容が必要かは今後の課題
- \* 生徒の実態の多様化に伴い集団編成の課題や教科，自立活動，道徳の内容に関する課題が多くあげられているが，編成，実施上の工夫は少ない。

## 平成22年度Web調査で明らかになったこと

- 1) 軽度の実態が明らかになった。  
軽度の生徒数，対象校のタイプ別内訳，軽度率別の学校数，入学前機関，障害別人数比
- 2) 学校タイプ別教育課程の特徴
- 3) 学校タイプによる教育課程のパターンの違い
- 4) 軽度知的障害のある生徒の生徒指導上の課題，軽度知的障害のある生徒に必要なと思う指導内容が明らかになった。
- 5) 教科「職業」の二極化  
座学，実習が実施されている。 等

## H22Web調査 総合考察

- \* 必要な教育内容として
  - \* 社会性や対人関係など自立活動や道徳に関連する内容
  - \* 生活に生かせる知識や技能を習得するための教科
  - \* 作業学習や現場実習を通した職業教育の充実
- \* 今後の課題
  - \* 具体的な指導内容
  - \* 効果的な指導方法
  - \* 教育課程上の位置づけ

高等部に在籍する  
軽度知的障害のある生徒のための教育課程

【卒業後の目指す姿】  
自立と社会参加  
就 労  
社会の中での役割のある一員としての存在



【研究課題】

## 特別支援学校（知的障害）高等部における軽度知的障害のある生徒に対する教育課程に関する研究

研究の背景・研究目的

H22研究1（軽度知的障害のある生徒に対する教育課程に関する実態調査）

職業教育

教科指導の充実

対人コミュニケーション能力、社会生活のルール、  
基本的な生活習慣、職業能力の育成  
(軽度知的障害のある生徒に必要な指導内容)

研究協力機関・パートナー校における実践

研究機関① (NISE)

研究機関② (NISE)

H23 調査2 (教科等の実施状況についての調査)

H23調査1 (軽度知的障害のある生徒に必要な指導内容についてのWeb調査)

H23調査3  
軽度知的障害のある生徒に必要な指導内容についてのインタビュー調査 (研究協力機関パートナー校から)

軽度知的障害のある生徒に対する教育課程のモデル案や専門的対応のポイント等



## H23 Web調査について

【調査1】

軽度知的障害のある生徒に大切な指導内容に関する調査

【調査2】

特別支援学校（知的障害）高等部における軽度知的障害のある生徒の国語科、数学科の内容の実施状況及びその教育課程上の位置付けに関する調査

【対象】

全知長加盟特別支援学校高等部 軽度知的障害のある生徒

【方法】

NISEのアンケートサーバーを用いたWeb調査

【期間】

平成23年7月21日～9月26日

【回収率（9/7現在）】

69%以上

## 調査1：軽度知的障害のある生徒に大切な指導内容

\* 軽度知的障害のある生徒に大切な指導内容(H22調査より)

1. 対人コミュニケーション能力
2. 社会生活のルール
3. 基本的な生活習慣
4. 職業能力の育成

\* 1～4の具体的な内容を明らかにする。

\* 授業で取り上げている内容

\* 教えることが難しいと感じる内容

\* 自由記述式の回答

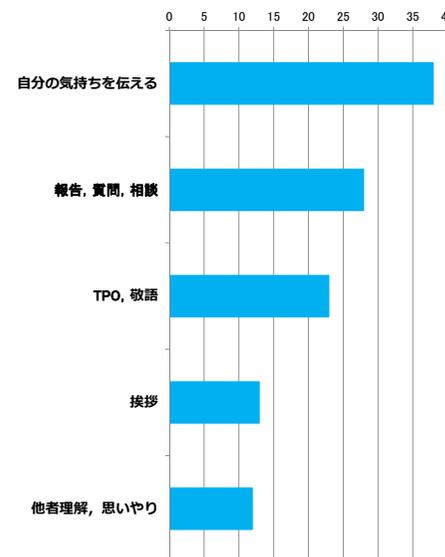
\* 全回答の10%を無作為抽出

\* 研究者の協議によるカテゴリ化

件数の上位5カテゴリまでを示す。以下同様

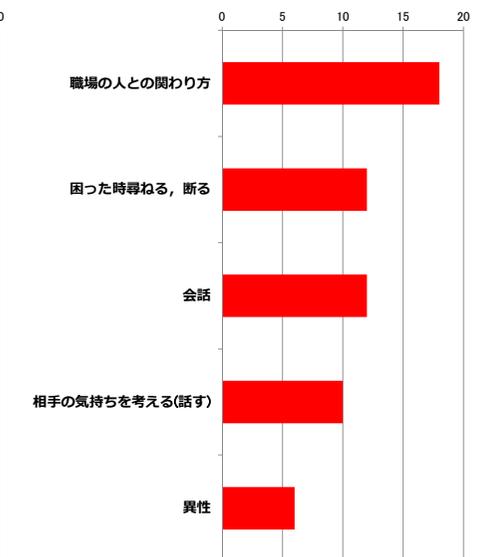
対人コミュニケーション能力

授業で教えているもの(N=164)



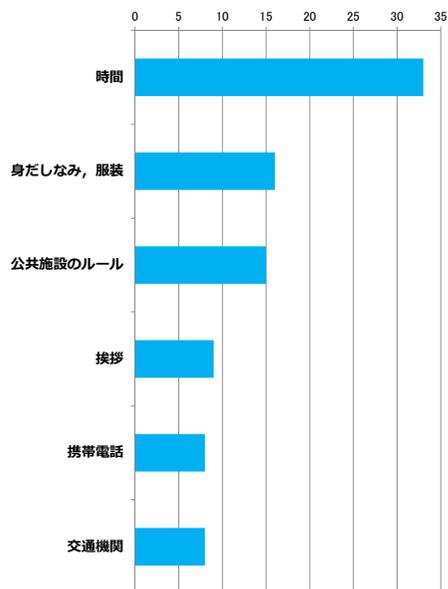
対人コミュニケーション能力

教えるのが難しいもの(N=80)



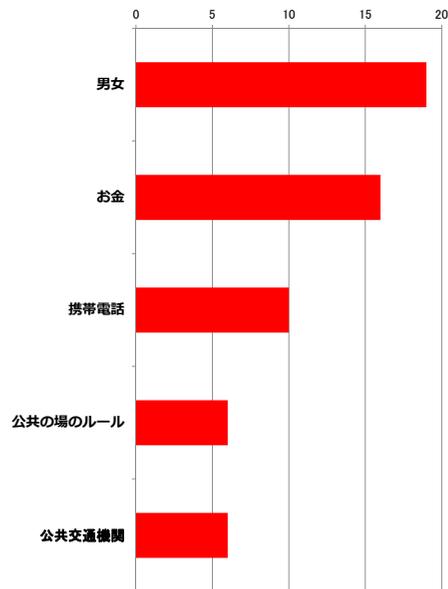
### 社会生活のルール

授業で教えているもの(N=146)



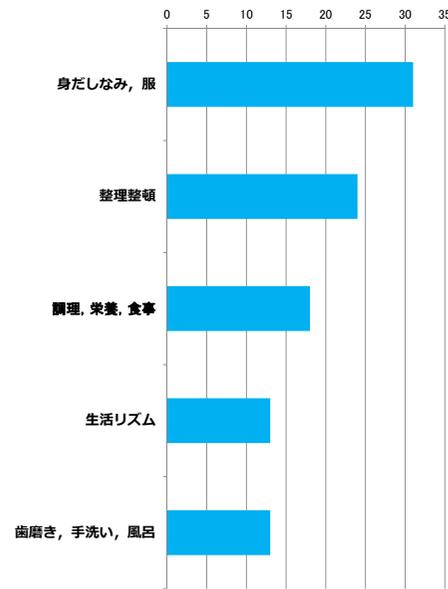
### 社会生活のルール

教えるのが難しいもの(N=81)



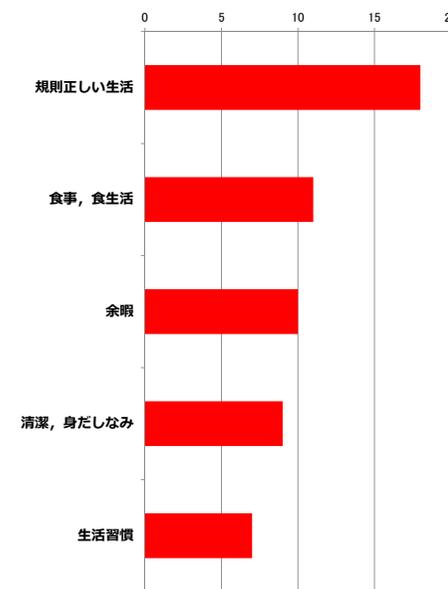
### 基本的な生活習慣

授業で教えているもの(N=142)



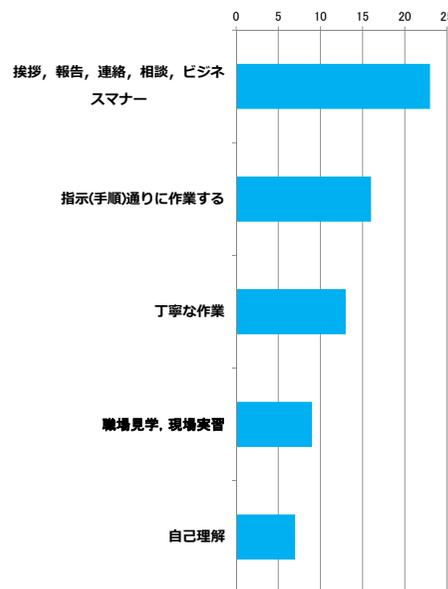
### 基本的な生活習慣

教えるのが難しいもの(N=77)



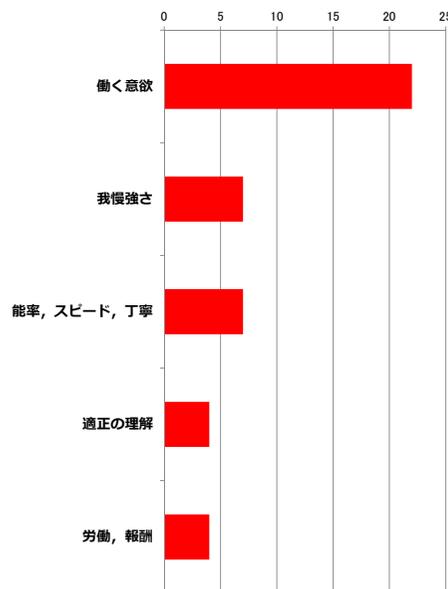
### 職業能力の育成

授業で教えているもの(N=143)



### 職業能力の育成

教えるのが難しいもの(N=75)



## 調査1：結果のまとめ

	授業で取り上げる内容	教えるのが難しい内容
複数キーワード共通の内容	報告, 連絡, 相談, 質問, 挨拶, 身だしなみや服装	異性, 男女に関すること
対人コミュニケーション	自分の気持ちを伝える, TPOに応じた敬語, 他者理解や思いやり	職場の人との関わり, 困った時に質問する, 会話, 他者理解や思いやり
社会生活のルール	時間を守ること, 公共のルール, 携帯電話	金銭, 公共のルール, 携帯電話
基本的な生活習慣	整理整頓, 食生活, 生活リズム	生活リズム, 食生活, 余暇
職業能力の育成	指示通りの作業, 丁寧, 自己理解	働く意欲, 我慢強さ, 丁寧, 自己理解

今後の分析：内容と教育課程上の位置付け, 教育課程タイプと内容

## H23 調査2について

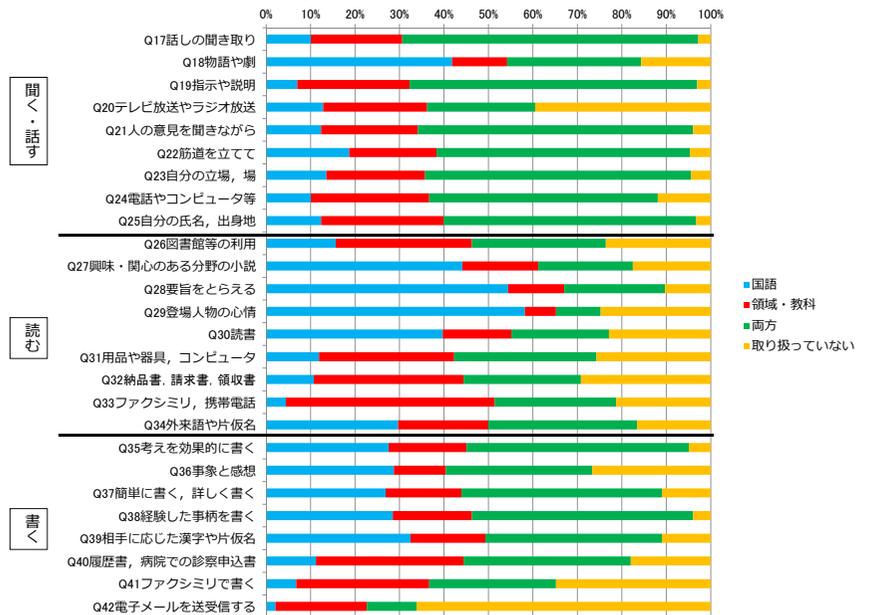
### 【調査の背景】

- ① H22Web調査の結果から教科学習の充実が課題として上がっている。
- ② 高等部に在籍する軽度の生徒の多くは通常の学級、特別支援学級を含めて通常の小・中学校での学習経験がある。
- ③ 軽度の生徒の卒業後を考えると、軽度の状態像ならではの生活に生かすという視点において、現行の学習指導要領に示されている教科の内容に関して、重点的に指導を行うべき内容があるのではないかと。また、知的好奇心の向上や余暇につなげていく意味でも教科の内容があるのではないかと。
- ④ 軽度の生徒に何が指導されているかが明らかではない。なおかつ何が軽度の生徒にとって重要であるかも明らかではない。この点について調査をする必要があると考える。
- ⑤ 今回の調査では、もっとも生活に生かす視点では関連があると思われる国語と数学を取り上げる。

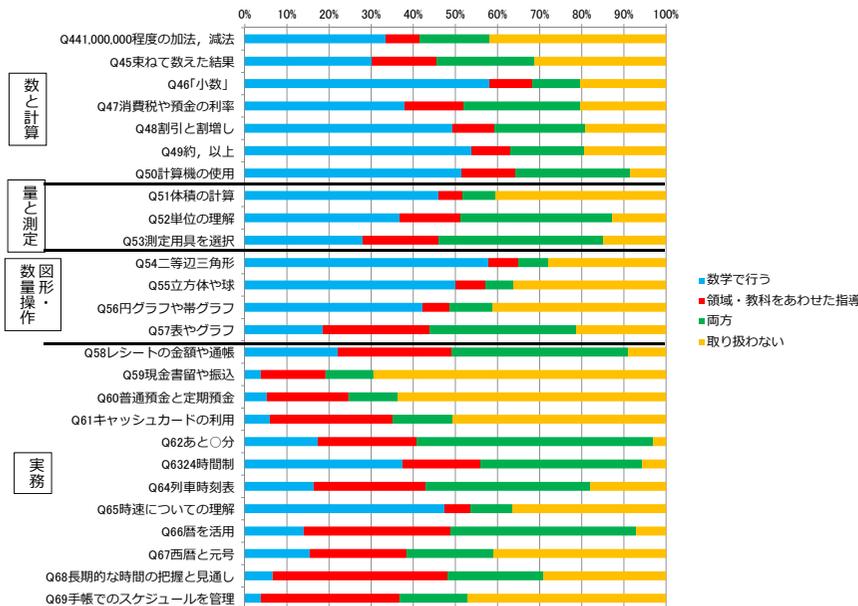
### 【選択肢】

1. 国語（数学）の時間で取り扱う
2. 領域・教科を合わせた指導の時間で取り扱う
3. 1と2の両方で取り扱う
4. 取り扱っていない

## 「国語」の指導内容の集計結果



## 「数学」の指導内容の集計結果



## H23 調査2 結果のまとめ

国語科に比べ、数学科について取り扱われていない内容が多い

**国語→90%以上取り扱っているQ**  
 Q17 相手の立場や意図、気持ちを考慮しての話しの聞き取り  
 Q19 指示や説明の聞き取りと適切な行動  
 Q21 人の意見を聞きながら自分の考えを整理して明確に話す。  
 Q22 筋道を立てて正確に必要な内容を話す。  
 Q25 自分の氏名、出身地、趣味、希望などについての限られた時間内での自己紹介  
 Q35 目的や意図に応じて自分の考えを効果的に書く。  
 Q38 経験した事柄を順序立て、自分の意見や感想を交えて分かりやすく書く。  
**→50%以下のQ**  
 Q42 電子メールを適切に活用し送受信する。

**数学→90%取り扱っているQ**  
 Q50 「乗法・除法」及び「加法と減法が混合した計算」についての計算機の使用  
 Q58 レシートの金額や通帳の残高の確認  
**→50%以下のQ**  
 Q59 現金書留や振込、振替を利用した送金の理解  
 Q60 普通預金と定期預金の違いがわかり、貯蓄方法やローン、金利などについての理解  
 Q61 キャッシュカードの利用について、言葉の指示に対する操作、暗証番号の記憶、カードの保管などの理解

観点別の分析  
 自由記述の分析  
 教育課程のタイプ別の分析 等